

船舶事故調査報告書

平成23年5月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 山本 哲也

委員 石川 敏行

委員 根本 美奈

事故種類	転覆
発生日時	不明（平成22年7月12日 08時00分ごろ～08時50分ごろの間）
発生場所	北海道奥尻町青苗岬灯台から真方位160° 2.3海里（M）付近 （概位 北緯42° 01.2′ 東経139° 28.1′）
事故調査の経過	平成22年7月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で行方不明となったため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第2政宝丸 ^{せいほう} 、0.7トン HK3-119252（漁船登録番号）、個人所有 5.89m（Lr）×1.77m×0.68m、FRP ガソリン機関、漁船法馬力数60、平成6年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 52歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和59年2月24日 免許証交付日 平成18年5月31日 （平成23年8月29日まで有効）
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成22年7月12日08時00分ごろ、青苗岬灯台から160°（真方位、以下同じ。）2.3M付近の漁場でつぶかご漁を操業しているところを僚船によって目撃された。 荒天のために操業を中止して青苗港に帰港した僚船は、08時50分ごろ、本船が帰港していないことに気付き、本船に無線で連絡をとろうとしたが、通じなかった。 搜索していた僚船は、平成22年7月13日06時30分ごろ、青苗岬灯台から256° 11.1M付近において、無人で転覆している本船を発見した。 海上保安庁及び僚船等は、船長の搜索を行ったが、発見することができなかった。 本船は、僚船により北海道奥尻町青苗港にえい航された。
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北北東、風力 6 海象：波高 約3m、水温 約20℃ 奥尻町に強風、波浪、雷及び濃霧の各注意報が発表されていた。

その他の事項	<p>本船は、つぶかご漁では通常、05時ごろ出漁し、09時ごろ帰港していた。本事故発生当日は、荒天のため出漁を見合わせていたが、風が弱まってきたことから06時30分ごろ僚船数隻とともに出漁した。</p> <p>つぶかご漁の仕掛けは、1建て総延長が約350m、仕掛け固定用アンカーは約6～7kgであり、直径9mmの幹縄に約10m間隔で約30個のかごが連結されていた。</p> <p>つぶかご漁の操業方法は、海底に設置された仕掛けを1建てずつ引き揚げてかごからつぶを採取し、餌を入れ替えた後、再びかごを設置するものであった。</p> <p>本事故後、本船の仕掛けを引き揚げたところ、一部のかごの餌が入れ替えられていた。</p> <p>本船の船体には、他船と衝突した痕跡はなかった。</p> <p>船長の体調は、良好であった。</p> <p>船長の名前の入った救命胴衣は、本船とともに発見された。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>あり</p> <p>本船は、青苗港南方沖において、08時00分ごろ操業中のところを僚船により目撃され、青苗港に帰港した僚船が、08時50分ごろ本船に無線で連絡をしたが、通じなかったことから、この間において、転覆した可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、つぶかご漁の仕掛けの状況から、操業中に転覆した可能性があると考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していなかったものと考えられる。</p>
原因	本事故は、本船が、青苗港南方沖においてつぶかご漁の操業中、転覆したことにより発生した可能性があるものと考えられる。	
参考	<p>本事故の再発防止策として次のものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 荒天時には無理に出漁しない。 ・ 荒天時は早期に避難する。 ・ 救命胴衣を着用する。 	

※ 「参考」は、今後の同種船舶事故等の再発防止のために役立つと考えられる事項を列挙したものである。